

入賞作品紹介

14

中学生の部親子賞 入選

読む 知る 学ぶ

E! 新聞

こんな新聞どうですか

平田村 二瓶 竜也君
小立中2年

こんな新聞あったらいいな、とみなさん考えたことはありますか。子供みんなはテレビ欄くらいしか読まないと思います。どうしたら子供が新聞を読むようになるのでしょうか。私はゲーム、マンガの情報が出てくる新聞がいいと思います。

てしまいます。だから子供に見る気をおこさせるような新聞がいいと思います。新聞は大人の方にとって大事なものだと思えます。ですが子供のみんなは何のことでしょうかという気持ちでいると思います。ですからこのような新聞がいいと思います。

新聞です。毎日違う問題が出てくるのでどんな新聞か興味が出てきます。毎日五教科の問題をやり小学校と中学校の授業のほかにまたもう一つフラスアルファになると思えます。自分に豆知識として身に付くこともありま。またほかの人よりも一つ覚えられたと自分で思うことがあると思えます。ですからこのような新聞があってもいいと思います。

ではなく、ほかの記事も他人事ではなく自分の事だと思ってみたいと思います。僕は県南の欄を時々見ます。石川郡の出来事や僕の弟のスボ少の記事があるのを見ます。

また自分の所属する部活動やスポーツの記事などがけいさいされているページも見ます。そのほかの記事は見ていないので、次から違う記事の所も見ていきたいと思えます。

私と新聞

母 二瓶 妙子さん

私はいつもテレビ欄しか見ませんでした。自分の生活に必要性を感じなかったからです。しかし、現在は毎日かかさず読んでいます。

私は二十三歳で嫁ぎました。子供を産み、育児休暇中にふと、私は外界から隔離されているという不安に襲われました。子供と二人きりで、テレ

びと言えば子供番組でした。そんな時、新聞を読むようになりました。県内外の出来事や幸せな記事、不幸な記事、事故や事件、その他沢山の情報がつまっていました。時には新聞に向かって話しかけていることすらありました。あれから十四年、今も毎朝新聞を読む事が日課となっています。最近楽しみにしているのは、中学生の国語の授業で行われている相聞歌の記事です。息子が中学生ということもあり、私が、あのドキドキする感覚は年を重ねても共感できる部分があります。しかし、時代は変わって

るのですね。今の子供達の方が恋愛に積極的な気がします。それを上手く表現できているので、手く感心します。これからはどこかの子供達をほほえましく見守りたいと思えます。

新聞は、多くの人達の気持ちをより多くの人達に伝える大切な手段だと思えます。活字離れが進んでいますが、これからの沢山の情報を載せ多くの人達のもとに届けられることを願います。

私はこれからも、ぶつとぶつと話しながら新聞を読み続けたいと思えます。